



建築設備技術遺産

認定第 32 号 鑄鉄製ボイラー（自動給炭器付き）
(cast iron boilers with automatic stocker)

昭和鉄工製「アサヒボイラー」
1936年(昭和11年)製造

管理者：豊郷町 教育委員会

所有者：滋賀県犬上郡豊郷町

製造者：昭和鉄工株式会社

申請品は、1936年（昭和11年）昭和鉄工株式会社により製造され、滋賀県犬神郡豊郷尋常高等小学校に設置され、全館暖房用のボイラーとして利用されていた。同型鑄鉄ボイラーは1931（昭和6年）世界的に著名であったアメリカンラジエーター社製を参考に、日本産の石炭に適合させ、かつ国内法令に適合できるように研究開発されたもので、昭和初頭に「アサヒボイラー」として販売された。暖房用ボイラーは明治維新以降海外製が主流であったが、同型鑄鉄ボイラーは発売後20年以上に渡り国産ボイラーとして使われ続けた。鑄鉄製ボイラーにはストーカーと呼ばれる自動給炭器（石炭の自動供給装置）が備えられていて、手焚きに比べて労力的にも、燃焼効率的にもメリットがあったと思われる。

申請品が設置されている豊郷小学校は、1937年（昭和12年）に完成（当時は豊郷尋常高等小学校）し、2001（平成13）年まで使用されていた。昭和初期の建物ながら現代的な設計は、日本各地に名建築を残したウィリアム・メレル・ヴォーリズによるもので、当時はまだ珍しかった鉄筋コンクリート造で、温水暖房・内線電話・ガス供給設備など時代の最先端を行く設備が備えられ、「東洋一の小学校」と呼ばれていた。校舎の耐震化のため「解体し新校舎を建設」との方針も示されたが、地元町民の保存運動もあり、新校舎を新築する一方で旧校舎が保存され2013年には国の登録有形文化財の指定を受けた。

建築設備機器は、機能の劣化とともに解体撤去されてしまうが、申請品は戦時中の供出を逃れ、建物保存という幸運に恵まれ、建物とともに現存している。申請品は戦前の貴重な建築設備遺産として認定するに値するものである。

